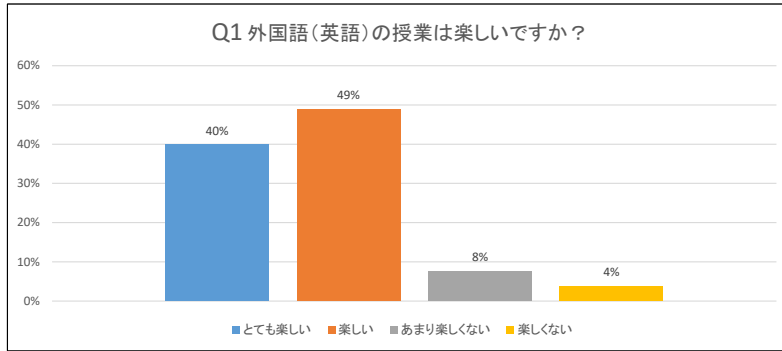


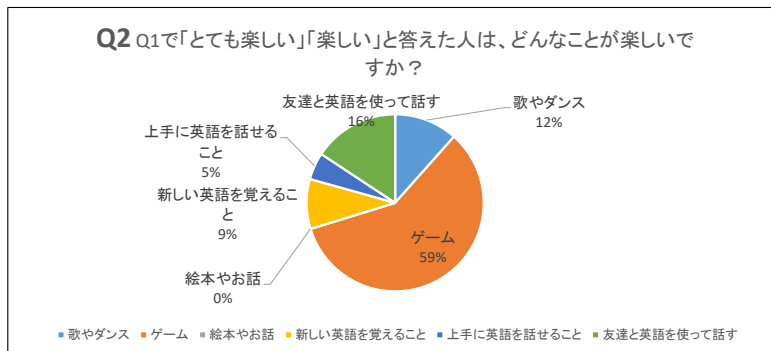
令和7年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(豊野小)



【Q1について】

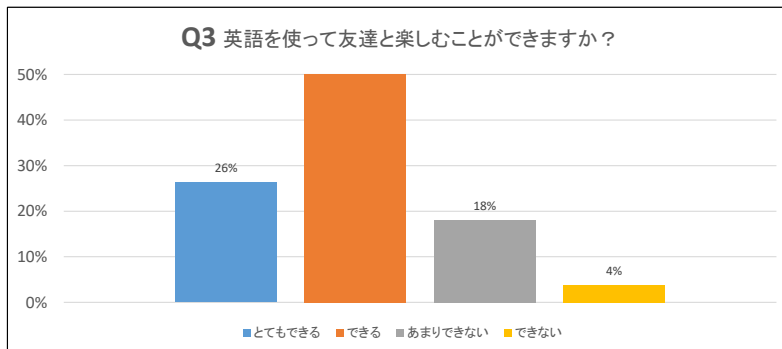
全体の89%の児童が外国語(英語)の学習に対して「楽しい」「とても楽しい」という感想をもっている。一昨年度の74%から見ても増加している。これは、これまでの学種指導の積み重ねから、教職員の指導に対する理解が進んでいることが考えられる。また、本校は小中学校が併設されているため、6年生は中学校の英語教諭と学ぶ時間が設定されており、より専門的な指導の下、学習する機会があるからではないかと考えられる。

一方で、12%の児童が「楽しくない」「あまり楽しくない」と回答している。そのような児童は一昨年度と比較すると減少しているが、さらに学級の児童の実態に合わせた授業づくりを進めていく必要があると感じられる。



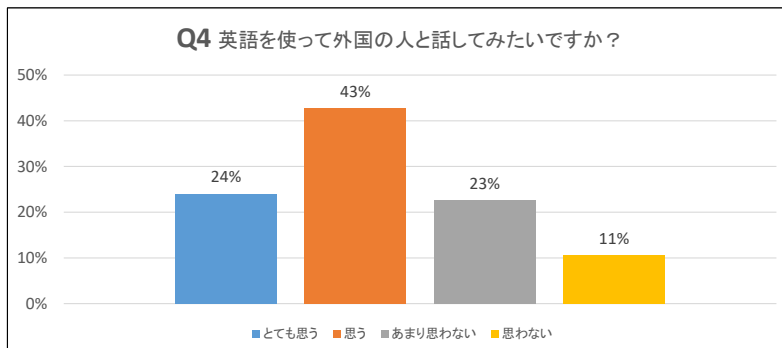
【Q2について】

「歌やダンス」「ゲーム」などの活動的な学習内容を取り入れて行っていることが児童の外国語(英語)への関心を高め、意欲的に学習に取り組むことにつながっていると考えられる。また「友達と英語を使って話す」ことが一昨年度よりも上昇している。学習内容への関心が高まり、理解が深まったことが、児童の学習への意識及び、楽しさの質の向上につながっていると考えられる。



【Q3について】

78%の児童が「できる」「とてもできる」と回答している。上記のQ2にもあるように、その多くはダンスやゲームなどの学習内容によるものでもありと考えられる。他にも、低中学年における自己紹介やあいさつなどのやりとり、高学年における道案内や絶滅動物の紹介等、様々な活動を通して学習を楽しんでいることが考えられる。一方で22%の児童が「できない」「あまりできない」と回答している。これは、人とのやりとりや、人前での発表が苦手、外国語(英語)の学習の理解が進んでいない等が理由として考えられ、授業の改善も視野に入れながら取り組んでいく必要がある。



【Q4について】

67%の児童が「思う」「とても思う」と回答しており、学習で習得した技能をより実践的に活用したいと考えている。これは、学習の理解の深まりと、日常的な学習における英語での友達とや、教師、ALTとのやりとりで自信ができてきていることが起因しているのではないかと考えられる。

一方で、34%の児童が「思わない」「あまり思わない」と回答している。英語でのコミュニケーションに自信がもてないことに加え、英語に限らず日常的なコミュニケーションも苦手意識をもっていることが理由として考えられる。学習内容にコミュニケーションを多く取り入れたり、できたことを実感できる自己評価や教師によるフィードバック等を行う必要があるのではないかと考える。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

英語専科の教員がいないことで、専門的な知識はない担任が授業を行っているが、学校として教材を各学年に準備しており毎時間活用している。さらに担任が作ったものを追加していくことで年々充実してきているように思う。さらに、各学年の担任が教材研究等を進めることで、教師自身が外国語への興味関心を高め、中学校からの英語につなげていきたい。

【考察・今後の展望等】

年々「英語が苦手」という児童が減少してきており、逆に「英語が楽しい」と感じる児童が増えてきている。これは、各学年の担任の先生方、ALTの先生のお陰でもあると思う。さらに学習内容の改善や学級の実態に応じた学習の展開を工夫していく必要があると考える。また、高学年は中学校への学習のつながりを意識していく必要もあると感じる。小中学校併設の良さを生かしながら、英語に対するプラスのイメージを高め続けていけるようにしていきたい。